「この人 31」　越前 春生 77歳 東京都

編集部　俳句を始められたのはいつ頃から？

越　前　二十五年前に体を壊して、年に七十回は行っていたゴルフができなくなったんです。それで、主治医にすすめられたのが、きっかけです。兄が短歌をしてたんですが、俳句なら結社に入れと言われて、結社に入りました。だけど、俳句を知らないし、季語ってものがよく分かんなくてね。結社誌の季語を何千、何万と、毎日ノートに写しました。三ヶ月はやりましたね。そのお陰で、句会でも吟行でも歳時記は要りません。持っていきません。

編集部　滑稽俳句を始められたのは？

越　前　八木先生の講演を伺ったのと、月刊誌「俳壇」で選者をされていて、「ああ、これだ！」と思って飛びつきました。嬉しかったですねえ。自分らしい句を安心して投句できる。思ったことを、のびのび言えるんですね。価値を認めてもらえる。

編集部　滑稽俳句の魅力は何でしょうか？

越　前　月に二十回は句会に出てるんですが、面白い句を出すと、真面目にやれと言われる。でも、可笑しいから俳句としてきちんとしてないというのは、おかしい。俳句でありながら、人をにやりとさせられるところがいいんですね。私のモットーは、「楽しい俳句をつくる」ということ。詩情云々、難しい事は言わない、俳句は難しいものではない、楽しく作る、考えることが一番ですからね。

編集部　楽しいお話を、ありがとうございました。

＜代表句＞

父親のいまは他人の七五三
二輌目の男ばかりの秋暑かな
松茸の穴場を言はぬまま逝きし
行く秋の二階に住みて音たてず
よく喋る奴が苦手や初句会

滑稽俳句協会ホームページに掲載の記事・写真・イラストなど、
すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。